



『新宿力』で創造する
やすらぎとにぎわいのまち新宿

令和6年第1回区議会定例会
新宿区長定例記者会見資料
令和6年2月2日

事業名	生活困窮世帯の子どもへの学習支援の推進		
予算額	令和6年度予算額 (前年度予算額)	72,879千円 32,873千円	(拡充)
取材先	福祉部保護担当課長 福祉部生活福祉課長	小原 (電話 03-5273-3796) 藤掛 (電話 03-5273-4550)	

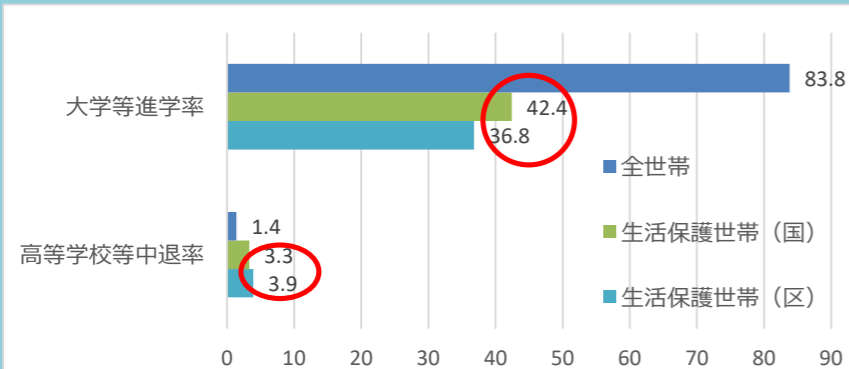
「貧困の連鎖を防止するため、被保護世帯を含む生活困窮世帯の子どもへの学習支援を充実します。」

区は、支援現場で、様々な背景から、進学や希望の進路に思いが至らない子どもたちと接してきました。そうした中、背景や境遇にとらわれず、将来の夢や希望を自然に持てるように、従来の学習支援事業を見直し、大幅に拡充することとしました。

◆生活困窮世帯の子どもたちが抱える課題

生活困窮世帯の子どもは、一般世帯と比べ、家庭で勉強する環境や学習意欲、教師や友人との関係、将来に向けた意識面で課題を抱えていることが多く、保護者についても、心身や就労上の課題や、周囲の住民と関わり合いが少ない傾向があることから、必要な情報や支援が行き届きにくいという現状があります。

こうした状況を打破し、貧困の連鎖を防止するためには、高校卒業後の大学や専門学校等への進学や資格取得、就職、職業訓練の受講等、本人の希望を踏まえた多様な進路選択が自然とできるよう環境を改善することが重要です。



生活保護世帯の子どもたちは、一般世帯と比べて、

- ・大学等進学率が低い
 - ・高校中退率が高い
- という状況にあります

※全世帯は文部科学省学校基本調査より、生活保護世帯(国)は厚生労働省社会・援護局保護課調べ

【支援現場から】

- ・学習する意義が、分からない
- ・学習する意欲が、湧かない
- ・悩みや進路を、相談できる人がいない
- ・家庭で、学習する場所がない。



必要なことは

- 身近な“よき相談相手”
- 個性や理解度に合わせた学習機会

“よき相談相手”

1 子どものライフサイクルに合わせた訪問支援【新規】

平日夕方以降や土曜日など、面接しやすい日時での訪問を通して、子どもとの関係を築き、様々な相談に応じていきます。

- 対象 : 小学4年生～高校卒業まで
- 頻度等 : 最大週1回、約60分
- 目標数 : 150名



学習機会の確保

2 新宿進学さぽーと教室の対象拡大【拡充】

対象者の個性や理解度に応じた、個別指導型の学習支援を提供します。

- 従来 : 中学1年生～中学3年生
- 拡大 : 中学1年生～**高校卒業まで**
- 頻度等 : 週2回、約120分
- 目標数 : 50名

